
X・B・S **なのはとフェイト、エリオとキャロの場合**

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S なのはとフェイト、エリオとキャロの場合

【Nコード】

N2534P

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それはたった一つの少女の願いから生まれた。

12月20日高町家のベランダからヴィヴィオは流れ星を見ていた。
ヴィヴィオ

「あつ、流れ星！なのはママ、見て、流れ星だよ！」
なのは

「はーい」
それを聞いたのはヴィヴィオの母親である高町なのはである。
なのは

「ヴィヴィオ、流れ星に何お願いしたのかな？」
ヴィヴィオ

「んーとね、なのはママとフェイトママが結婚できますようにって
お願いしたの！」
なのは

「け、結婚って……／＼／＼。でもママ達は法律じゃ結婚で
きないんだ」

ヴィヴィオ
「そうなんだ……」

ヴィヴィオは落ち込む。無理もない。自分の理想が夢となったのだ
から。しかしこれが後に現実のものになるとはなのはやフェイト、
そしてヴィヴィオも知らなかった。

そして翌日、なのはは昨日のことを友人のフェイトとはやてに相談
した。

フェイト
「ええっ、私となのはが結婚！？」
はやて

「それ本当にヴィヴィオちゃんがいったんか？」
なのは

「うん、私も驚いたよ……。でも、私もフェイトちゃんが好き！私だってフェイトちゃんと結婚したい！！」

フェイト

「なのは……／／／／／」

なのは

「フェイトちゃん……／／／／／」

見つめあう二人。そこにはやてが、
はやて

「せやけどおするん？法律上地球じゃ……。ん？地球？そうか！」

フェイト

「どうしたのはやて？」

はやて

「そうや、そうやったんか……」

なのは

「だからどうしたの？」

なのはとフェイトははやての発言に戸惑うばかりである。しかし驚くのはこれからである。

はやて

「二人とも！結婚ならできるで！！女の子同士のな！！」

なのフェイ

「「本当！？」」

はやて

「おう、本当や。なんせ、ここで式をあげればいいんや。なんせここはミッドチルダ。同姓婚は認められているんや」

なのは

「え……。そうなんだ……」

なのはは唖然としていた。まさか意外な場所でフェイトと結婚できるとは思わなかったからだ。灯台下暗しとはまさにこのことである。

そしてなのははこのことをヴィヴィオに伝えた。当然ヴィヴィオは大喜びだ。そして日にちは12月25日クリスマスの日に行われることになった。同じ頃、もう一組恋人になった二人がいた。

エリオ

「キャロ聞いた？」

キャロ

「うん聞いたよ。なのはさんとフェイトさんが結婚するんだって」
エリオはしばらく黙った。そして……

キャロ

「エリオ君？」

エリオ

「キャロ……好きだ」

エリオはキャロを抱きしめた。そして自分なりの告白をした。

キャロ

「え、エリオ君……／＼／＼」

突然の告白に戸惑うキャロ。だが彼女の答えは一つだ。

キャロ

「こんな私でよければ……お願いします」

エリオ

「キャロ……ありがとう」

こうして二人は恋人同士になった。そして二人は誰もいないことを確認すると……

エリオ

「ん……／＼／＼」

キャロ

「ん……／＼／＼」

唇を合わせファーストキスを交わした。それを物陰から見たなのはとフェイトは

なのは

「あの子たちも結婚する日も近いね、フェイトちゃん」

フエイト

「そうだね」

そして12月25日クリスマス。この日はなのはとフエイトの結婚式だけではなくエリオとキャロの婚約も発表された。

神父

「高町なのは。あなたは、フエイト・テストロッサ・ハラウンを生涯愛し続けることを誓いますか？」

なのは

「はい、誓います」

神父

「フエイト・テストロッサ・ハラウン。あなたは高町なのはと生涯を共に歩いていくことを誓いますか？」

フエイト

「はい、誓います」

神父

「それでは、指輪の交換を」

神父様の言葉にそれぞれが頷き、二人は自分の指輪をお互いの左手の薬指へと交わし合う。

神父

「それでは誓いのキスを」
なのは

「フエイトちゃん・・・」

フエイト

「なのは・・・」

見詰め合う二人。二人は互いの距離を縮める。そして唇が重なる。スバル

「なのはさん、おめでとう!!」

ティアナ

「フエイトさん、お幸せに!!」

出席者たちから一斉に祝福の言葉が掛けられた。こうして聖夜の結婚式は幕を閉じたのであった。

そして……

ヴィヴィオ

「ママおはよう」

なのフェイ

「おはよう」

結婚し法的に結ばれたのはとフェイト、その子供たちであるヴィヴィオとエリオとキャロ。ごく普通の

家庭でごくふつうの生活を行った。ヴィヴィオはそれに大満足であった。唯一つ困ったことがあるのならば……。

なのは

「はいフェイトちゃんあーん」

フェイト

「あーん」

バカップルによくある行動を行っていたのだ。しかも……

キャロ

「エリオ君どう？」

エリオ

「ああ、最高だよ」

エリオとキャロも夫婦同然の行為をしていたのだ。ちなみに二人がやっているのは膝枕である。キャロの膝にエリオが乗っかっているのだ。

ヴィヴィオ

「あーもーみんなったらー／＼／＼」

それでもヴィヴィオは内心嬉しそうであった。全次元探してもこれ以上の幸せな家族はいないと思うからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2534p/>

X・B・S　なのはとフェイト、エリオとキャロの場合

2010年12月30日02時27分発行